

	第3回検討会での主なご意見	素案③への反映	
4章 歴史文化の特性 ①について	<ul style="list-style-type: none"> ・原始から現代まで自然と共生しているという記載だと、自然が全く変わらずにあるように受け取れる。仙台市の緑は人工林と言え、緑をつくりだしてきた努力こそが杜の都の原点である。市民と行政の努力で緑をつくりだして、それを暮らしに活かす生活を育んできている。説明文の最後の記述も、「共生が見られます」ではなく、「受け継がれてきました」といった記載にした方がよい。 	67ページ	<ul style="list-style-type: none"> ・「共生する形で自然環境を変化させながら、多様な暮らしが送られる」に変更 ・「海岸林など、暮らしの身近に緑がつくりだされ」の記載を追加 ・「第二次世界大戦における仙台空襲からの復興の際には、街路樹や公園に新たな緑がつくりだされ、暮らしに活かす文化が育まれてきました」の記載を追加 ・「自然環境との共生が受け継がれています」に変更
	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な自然環境に合わせて多様なくらしがみられるとあるが、今の仙台市域を考えると、旧市街地の屋敷林だけでなく、周辺部でも燃料供給のために山が荒れるなど、山野の環境がかなり大きく変わっている。単純に、自然環境に合わせた多様なくらしとするだけでなく、海岸林と同様、悪い意味だけでなく、共生する形で変えていったという視点も必要では。 		
4章 歴史文化の特性 ②・③について	<ul style="list-style-type: none"> ・市民向けの文化財の活性化に向けた計画を出す際に、交流があって、人が来たという側面はあれども、「軍都」という記載をする必要があるのかを考えた方がよい。この計画で何を歴史として引き出していくのか、説明していくのかという点が重要である。 	67・68ページ	<ul style="list-style-type: none"> ・「軍都・学都」の記載は削除 →「官公庁や教育機関、商業施設等の集積につながりました」 →「東北地方の中核となる官公庁や教育機関の集積に伴い」の記載に変更 →③に「官僚や軍人、文化人、学生など」の記載は残し
	<ul style="list-style-type: none"> ・仙台の近代史を考える上で、生活の端々に軍が色々な形で関わってくるということを、負の歴史として切り捨てるのもよくないのでは。多様な意見があることは考慮しつつも、記載内容について検討いただきたい。 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・「軍都」「学都」という記載をそのまま使用するのか、なんらかの工夫をするのかは、検討いただきたい。 		
4章 歴史文化の特性 ③について	<ul style="list-style-type: none"> ・伊達文化の形成について、市民の共通理解になっているのか？日本遺産を登録する際にいろいろなものを混ぜて「伊達な文化」という言葉をつくっている。近世の歴史としては疑問のある表記である。 	68ページ	<ul style="list-style-type: none"> ・「伊達文化」の記載は削除 →「近世における上方文化の採り入れ」、「上方の文化が積極的に採り入れられました」の記載に変更
4章 歴史文化の特性 ④について	<ul style="list-style-type: none"> ・④で杜の都の景観に言及するのは違和感がある。仙台空襲についての説明も必要。アジア太平洋戦争(または第二次世界大戦)末期の仙台空襲によって市街地が焼失し、戦災復興が図られて、近世の街割りを活かしながら復興してきた。 	68ページ	<ul style="list-style-type: none"> ・「第二次世界大戦末期の仙台空襲によって市街地が壊滅的な被害を受けましたが、戦後復興事業により、近世の町割りを残しながら新たな市街地へと更新されました」の記載に変更

	第3回検討会での主なご意見	素案③への反映	
5章1 文化財行政の歩みについて	・すぐに指定等になるかは別だが、文化財も多数収蔵されているため、年表に公文書館の開館も入れるべき。	69ページ	・公文書館開館を追加
5章2 既往の把握調査について	・近代遺跡の調査が建造物の項目になっているが、記念物では？	70ページ	・項目名を記念物(遺跡)に修正
	・記念物(植物)のところに、まちづくり推進課や百年の杜推進課で20年ほど前に刊行した街路樹等の調査報告書も挙げた方がよいのでは。	72ページ	・調査時に文化財(またはそれに関連するもの)として調査されたものを挙げる方向で整理予定。
	・仙台市の他部署が行った調査は、どういう形で文化財という価値判断ができるかという基準を設定して挙げていった方がよいのでは。	70~72ページ	
6章1 基本理念について	・説明文中の「地域総がかりで」という言葉は、強制力が働いているように感じるので別の表現にした方がよいのでは。	74ページ	説明文の記載を変更
	・文化財がかけがえのないものであるという意識を持つことはあくまで前提であり、その上でどう保存し、活用していくかということを将来像として記載すべきでは。		
6章2 方向性について	・方向性を「つながる」とすると、何と何が「つながる」のかわからない。	75ページ	・方向性を3つに変更 ・旧「つながる」の内容を新「支える」に包括 ・防災・災害対応は「守る」に移動
	・主語が行政だとしても、述語として「つながります」は違和感がある。		
	・地域や市民の主体性をどうやってサポートしていくかという施策を行政としてどう考えていくかというところが計画本来の理念と思われる。		
	・4つの枠の表現自体を検討してもいいのでは。 ・防災・防犯対策や災害対応などは「伝える」の方がいいのでは、などが考えられるので、方向性を4つの区分にするのか、その中での振り分けをどうするのか、など再検討したほうがよいのでは。		

	第3回検討会での主なご意見	素案③への反映	
8章 措置について	・建築物の把握調査について、対象となる文化財の時代が下がってきていることや、指定等の対象になる建造物(築50年以上)が毎年増えていくということも見越した上で、記載した方がよい。	90ページ	措置1の必要な追加調査に含める
	・デジタルアーカイブ化は、他自治体と比較して遅れているので、重点事業として取り組んでいただきたい。	90ページ	措置7を重点に変更
	・(文化財保存活用支援団体制度そのものについて質問あり)団体を育てるということも含めて考えるか、既存の団体の活動内容の拡大を考えるかなど、要検討していただきたい。	92ページ	措置18に「文化財保存活用支援団体となりうる民間団体の把握を行うなど、市民や民間団体等との連携を強化する」と記載
	・修理するとき材料や職人の確保が問題になる。材料や職人が必要になるので、その辺にも備えるべきでは。	93ページ	措置23に「技術者の養成等を図る」の記載を追加
	・災害発生時の対応について、文化財ドクター派遣事業についても考慮が必要。	95ページ	措置32にドクター派遣事業についても記載
	・ガイドボランティア会についての項目に、瑞鳳殿のボランティア会も載せた方がよい。	97ページ	措置46に記載を追加、表記をボランティア組織との連携に変更
	・岩切城の具体名を挙げてもいいのでは。他自治体も所有しているのであれば、連携も考えていくとよいのでは。 ・他にも多賀城や、岩切近辺の色々な遺跡、郡山、国分寺など他市町との連携を考えた方がよいものがあると思うので検討いただきたい。	98ページ 99ページ	措置51に岩切城跡の記載追加 措置56に「互いに関連性のある文化財の広域的な周遊を促す」の記載を追加
	・「支える」の項目に人材育成があり、市民の人材育成が記載されているが、マネジメントする側の環境整備も必要なので、文化財専門職の持続的な確保や、育成についても記載してよいのでは。	101ページ	措置61に「人材育成に積極的に取り組む」の記載を追加
	・データベースについては、建築学会で歴史的建築のデータベースをつくっている。既往のものをいかにうまく利用していくかということも想定した方がよい。	102ページ	措置66に「文化財に関わる各種学会との連携」を追加
・専門職の育成という視点を大学との連携の項目に入れてもよいのでは。	103ページ	措置70に「学生のキャリア形成等に寄与」の記載を追加	
9章 推進体制について	・関係機関にも仙台市公文書館を入れるべき。	104ページ	公文書館ほか、各種学校、各種学会、民間団体の具体名を追加